

こ大きなチャレンジでした。三線だけではな  
く、笛や太鼓や舞踊も学びました。楽器のひ  
きかただけではなく、先生達から聞いた沖繩  
の昔の話や、曲の意味や、先生達の経験など  
、全部忘れずに心の中にしじめこおきます。  
簡単な「ユンタク」でさえも、こも興味深く思  
いました。大事に覚えこおきたいと思ひます。  
それで沖繩の文化を毎日少しずつ学ぶことに  
しました。

舞台に出ることも出来ました。一番最初の

機会は六月十三日に行われた「ウチナンチユ  
子弟チャリテイ」公演に参加しましたこと  
です。独唱で二曲歌ってきんちゅうしました  
けど楽しんでやりました。スタッフと参加して  
くれた先生かたが歌手の皆さんにはありがた  
く思っこおります。

芸大の学内演奏会にも参加できうれしが  
ったです。邦楽の一年生と三年生の生徒達と  
演奏しました。夏休みから練習をして、みん  
なで（い）舞台が出来るようにがんばりました。

どの時に同級生とも先輩達とも仲良くして  
り友達も作りました。初めて舞台上で古典音楽  
を歌いました。みんなで力を合わせて創作な  
んかを歌って、踊っていい演奏でした。沖繩  
の文化を学ぶ若い人達が力を合わせるのを見  
て、感動しました。ここで見たその力をブラ  
ッルに伝えたいと言う気持ちを持。こ、今から  
もがんばろうと思ひます。

学内演奏会の時は一番忙しかっただです。  
十月十五日には父の親戚の「カヅマヤ」があり

、古典音楽を歌って参加しました。この大切  
なお祝いの場にいることが出来て、沖繩に  
て「かっただなま」と思ひました。芸大の友達と  
二人でまく開けをして、どきどきしました。  
でもよくがんばって、九十七歳のおばあさんの喜  
んだ顔を見るために歌いました。

そして、芸大祭の練習も始めました。女の  
子達だけの「みやらびーお」と言うグループで沖  
繩民謡を歌って二日も演奏しました。エイサ  
ーにも出ました。しめ太鼓をうちながら、ウ

ナナンナユ一の気持ちでもりあがりました。大勢の友人達も見に来てくれ、ところも楽しかった。

芸犬祭と同じ週に邦楽の定期公演も行いました。練習は忙しかったけどいい演奏が出来ました。うらかたにも手伝ってあげて、先輩達のパフォーマンスも見れてうれしかったです。

もう一つよかったことは本土に旅行に行ったことです。夏と冬休みに分けて、いろんな

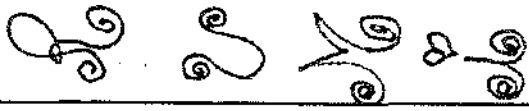
所を知ることが出来ました。海外日系人協会が組織する研修に参加しました。富士山に登る機会もあって楽しめました。とのあと鳥取県、熊本県、広島県など十県以上を見てまわりました。いろんな人と出会って、大事な友人達も作って、名所についてもたくさん学びながらところもいい旅でした。本土にいるのとこ達とおじさん達にも会えてよかったと思えます。冬休みは短かったけど日光に行くと、長野でスキーもやって、過ごしました。日

本に来るのは三回目なんです。初めてこんな旅行も出来て、うれしいです。友達を作るのと観光するのが私の大好きな趣味だから、この旅は最高だ。たと思います。

この一年間は今まで私の人生で特別な年でした。一人で住んで、日本人や世界中の人と出会って、初めて古典音楽を学んで、やはり困難はいっぱいありました。しかし困難は多ければ多いほど、どの後の出来事が大事だと思います。今年の出来事は忘れられない経験

験がたくさんありました。そのおかげで私は人間として大きくなりました。特にいい友達を作ることに沖縄の文化と歴史をもっと知ることが大切なことでした。しかし、この学びは一年間だけでは足りないと思うので、いつまでも沖縄のことを学んでブラジルでも勉強を続けようと思っています。このかおりたかひ文化と歴史を忘れずにいきたいと思っています。





十八歳の旅

大塚 パメラ・カロリナ

私が沖縄に来たのは、これで三回目です。

今回は琉球無踊をもつと習いに来ました。そ

して、無踊と関係あるものも習いに来ました。

2003年4月9日に一人で始めての旅を

終えて、沖縄に到着し、アパートでの生活が

始まりました。一人ぐらしは始めてなの

で、ちよつと心配でしたが、一人ぐらしする

のが楽しみでもありました。なぜかと言うと

①

誰も私に言う事もないし、私が一年間この家

の持ち主であるからでした。たまにホームシ

ックにかかつたりしますが、なんとが一年間

やつてこられました。留学ももうすぐ終りま

す。今は国が恋しいです。

一年間沖縄県立芸術大学で学びました。芸

術大学では私と一緒に二人の留学がいました。

一人はペルーから来た伊芸エクトルさん、グ

ラジルから来た座嘉比ツモネさんです。伊芸

さんと座嘉比さんは邦楽専攻で私はがく水き

2003

沖縄



# でしごの花 (のこすけ)

専攻です。私がとっていた科目は、日本語、  
 長唄三線、ふんそうほう、組踊り、踊、太鼓、  
 と三線です。長唄三線は日本の三線であつて  
 沖縄の三線とは少し違いがあります。長唄の  
 ぼうの長さはもつと長くて、糸の色も違い、  
 皮がねこの皮が犬の皮でもできていのに対し、  
 沖縄の三線はへじの皮で作られています。か  
 んそうほうと言う授業は琉球舞踊をしている  
 人のために、髪の毛のゆい方を教えます。と  
 っていた科目ほどこも私が関心をもっていた

## ②

ものでした。もちろんな事ですが、アルゼン  
 チンでめつたに習えない物がたくさんあり、  
 そして沖縄の歴史の部分であり、沖縄だけで  
 しかく習える事です。芸大以外では玉城流  
 節会の道場へ週に2回かよひ、舞踊を習つて  
 いました。道場でコンクールのために2ヶ月  
 とつくんして、つうかつたけど、良い結果が  
 出たから、よかつたと思います。道場に入  
 ってから、前の踊り方と今の踊り方と全然か  
 つているのが自分でも感じてとてもうれしい

# 踊り



です。それだけではなく、私のおじさんの家へ行って、三線の引き方も習っていました。この留学はとってもいいチャンスと経験だと思っています。でも、この留学で私に色々な問題があった。その原因は夏休みに始まりました。月曜から日曜までいつも新人賞のコンクールを受けるために、毎日6、7月の時に練習して、またコンクールが終ると芸大の学内演奏会のために週に3、4回ぐらい週末も練習していて、自由な時間がなくて、

③

私は良くない気持ちがかえっていき、ひにちがすぎでいく間にだんだん大きな問題になって、気づいた時は色々な活動をやる気がなくなり、つかれさえ感じていました。でも今では、そんな感情も、自分でこくかくできたと思っています。留学の間、色々な国の人と出会って、すごく良かったと思っています。たくさんの人と知り会って、ある人とはすごく仲が良かったし、とっても親切にしてくれました。なのでその人達が

友達

# 経験!!

らま、たくはなれたくないです。その一方で別の人は初めに仲が良かったけど、いつの間にか何かがかゆい、だんだんその人達とはなれてしまいました。色々な人間関係についてすごく勉強になりました。だけどその後、心が離れていると思っていた人とも、よく話せばわかり合えるということも学びました。これもとてもいい経験でした。今は友達になつた色々な国の人といつまでも交流をしたいですがらのことをいつまでも心から思いだ

## 4

せるだろうと思います。  
冬休みの中に私と同じプログラムの留学生と東京といつこへ行つて、クリスマスに他の県から来ていた、留学生と研修生とすごしました。クリスマス後は私の兄とおばさん、おじさん、いとこ達と何年かぶりに会つてつてもうれしかったです。私は親戚と良い時間がすごせました。いつかまた会いたいです。  
沖縄で一番美しいのは海だと思います。海

沖縄の海 一番美しい

# 思い出

の水はものすごくきれいで、その水色のかがやきもすばらしいです。どうしてかと言うとアルゼンチンでは、こんな海はどこにもないし、海へ行くのは何時間もかかるからです。だから初めて沖縄の海を見た時には感動しました。この海は私は一生ゆすれません。最後にお世話になった人達に感謝しています。玉城節子先生、芸大の先生方へ、一年生のみなさま、中川先生(日本護)私の親戚、沖縄でつくった新しい友達、アルゼンチンの県

⑤

人会にもこの機会をいただきとても感謝しています。みなさまどうもありがとうございました。またいつか世界のどこかで会おう。いつまでもありがとう。

海へ

どうもありがとう  
Muchas Gracias

# 永遠の友達になり

## ましょね...



1955年10月23日：アソツの  
 朝は田舎の朝だ。星は  
 四散泡り、空は、おしい  
 げな空を食うは。

おととい、私は大学の生協で「アソツ」と一緒にコーヒーを飲みながら、お喋りをしていた。一年の留学がそろそろ終わるといふことのでいたのだが、三人はなまが落ち込んで、最持ちがあまりよくながた。その時、アソツの一言が私の心を打ち、いまでも忘れられぬ。

「沖繩は私たちの共通点だね。」

そうだ。私たちはそれぞれ別の国で各自の生活もしていたが、不思議な縁でこのきれいな南国の島で出会え、友達におこした。沖縄県果費留学プログラムのお陰で「私たちが一人一人の心が融れ合うようにおた。そして、沖縄は皆の共通点場所とた。もし当時の私は沖縄に乗ながら、決して一生に皆さんと食えぬのではなれなうが。だがからこそ、今の私は沖縄に対して感謝の気持ちで胸がいっぱいなのだ」。

ここで、日本で留学するという長年の夢が叶った。また、一生忘れられぬ人達とも出会って、たんさんの温かい友情が生まれた。さらに、沖縄の美しい田園風景と島人の独特の文化の魅力を強く心に引き寄せられた。





2003年11月25日：阿嘉島で1泊2日をした。

5人（片貝留学生（私、ランツ、リア、公治と張）、カナダから来た志遠とニ年前のシンガポールの果敢留學生と何より）も楽しい。そのための、初めての長い期間異国に滞在して、阿嘉島を体験した！尾宿のおばあちゃん（サーター）が「アガ」は美味しかったよ〜

かりで「周のり」の人たちと会話をしているため、日本語の能力が確実には上達してきただろうなと思う。帰国してからも「勉強したことを基にして、一生懸命に日本語の名所を見物したり、美味しいチャンプルー料理を食べたり、留学の思い出も通して、沖繩の生活を満喫した。夏休みには本エで「一カ月の電車の旅もした。友達

と「一」に各県も巡ってみたいのは楽しいが、たけぞ、やはり沖繩の方が一番いいと思う。東京や大阪で「お父さんお母さん」は遊びや娯楽の場所がたくさんあるが、人込みが多くて、いつも混雑が「お」には居るのをさくらわったのだ。沖繩に帰ってきて、那覇空港に着いた瞬間、すばらしく着くよう

真夏の日差しで「さらさら」している海、にぎやかなで「活気のある」四角通り、躍動的なエイサー、道も歩いて「遠くから聞こえる」サンソンの音…この一年に「沖繩で」見たい、感じていた「物事」が一瞬で「心」に染まるように「なり」、私の人生の「一部」となってきた。その中には、「一番印象に残ったのは」那覇祭だ。十月の涼しい夜に「手で」冷たい「オリオンドール」を持ち、BEGINの「パフォーメーション」を見て、「沖繩」に来たのは「私にとって」人生の「一大転機」となったように「思」がした。一年で「思い」なほど「感嘆」しながら、「感情」で「胸」が「溢」水てしまった。





になった。

沖総での滞在期間はいっぱいの間にがもう  
 十ヵ月も経ってしまった。確りの時間が短い  
 らニモ、もとのこの鳥のことを知りたいたい、もとのこ  
 の友達と時間も過ぎたたい、もとの色々を経験を  
 積みたい、と強く思っている。留学はすぐ修了してし  
 まうが、今がまた沖総に来る新しい夢のスタート  
 となった。将来の素晴らしい日々に向うために、私は  
 帰国してがら精進いっばい頑張る。ツンガポールの人  
 たちはこの美しい前の国についてを教えてください、  
 またいつか沖総に戻って貢献していきたくと思っ  
 ている。

最後に、果敢留學生の皆さんにの一言：この  
 一年の解此台をも差にして、永遠の友達になら  
 うね。此がからも頑張ってください。

人財育成財団の方々及び留學生担当の照  
 屋さん、琉球大学の先生たちにもお世話に  
 なり、「心から感謝している。本当にどうもありがとう  
 ございました。

沖総にいる一年の短い間に、私はどんどん成長  
 してきた。感謝の気持ちを抱きながら、また私の  
 二島のまにまに帰ることを祈っている。沖総、  
 またね...



2003年9月14日：名護

英語の友達の名護で一夜もして、夜に焼  
 肉パーティーと花火もやった。次の日に伊計島の  
 ビーチへ行った。真夏の海とドライブは最高だった！  
 また行きたいなあ〜！

To Everyone That I've Met In Okinawa:  
 It's been one fantastic year! Thanks for making  
 it so enjoyable and unforgettable... please take  
 good care of yourselves, okay? You people will  
 always be in my heart. Until we meet again,  
 stay happy and smile lots!

Love Always,  
 surinah

セイナ

(ツンガポール)





## 沖縄の生活

マレーシア

コーチューホイ

大学時代日本語を少し学んだので、私はいつか日本に留学しようと思っていました。去年沖縄に来て、県費留学生になったことは私にとって夢のようなことでした。この一年間出会った人やあったことは私にとって忘れない思い出です。

沖縄に来たばかりのころは、日本語や日本の生活にまだ慣れていないので大変でした。でも、沖縄の生活にもだんだん慣れていって、楽しい生活ができました。琉球大学でいろんな国から来た人々と出会って、一緒に勉強できたのをとてもよかったと私は思います。クラスメートが自分の国のことを教えてくれたり、一緒に遊んだりしました。琉大の先生方は優しく、日本語だけではなく色々なことも教えてください、本当に心から感謝しています。



### 石川泡盛工場で見学した時

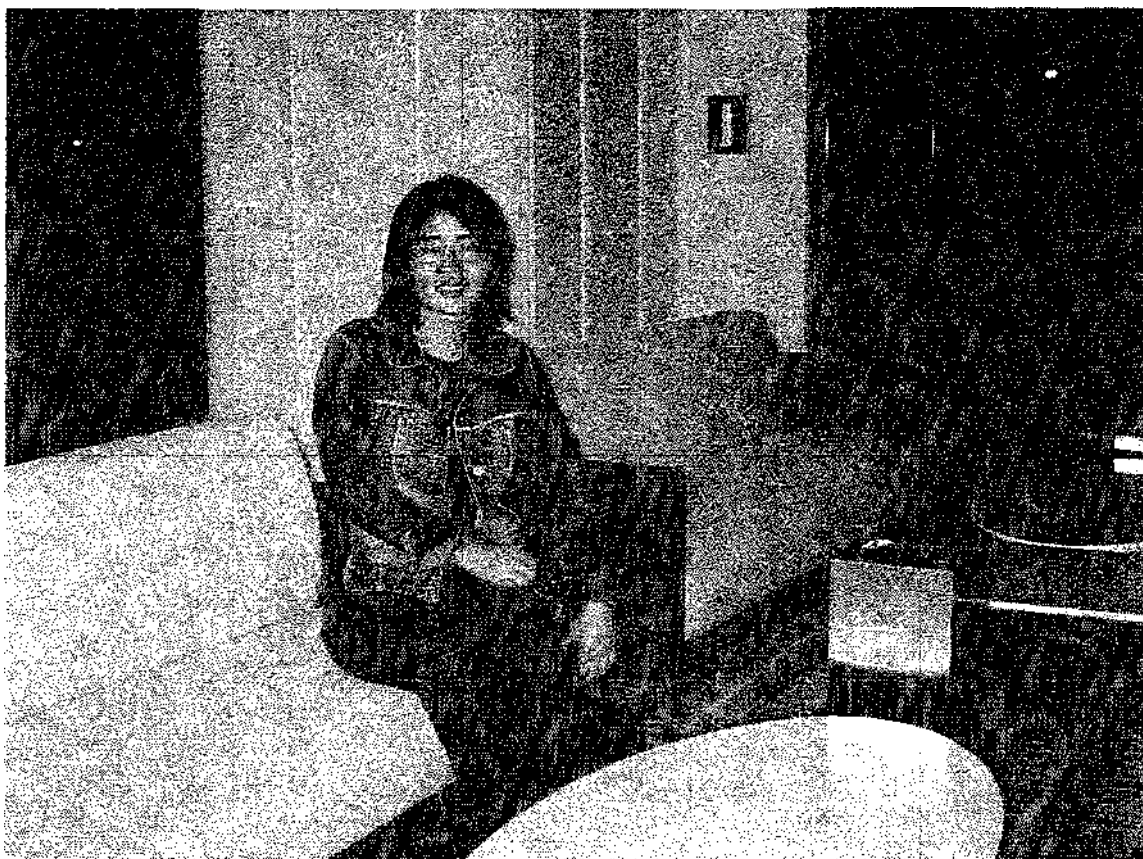
夏休みに色々なところに行きました。鹿児島から東京まで一ヶ月の旅行は本当に疲れましたが楽しい旅行でした。鹿児島の砂蒸し温泉、姫路城、金閣寺、東大寺、箱根、明治神宮、靖国神社など素晴らしいところにたくさん行ってきました。今でもこれらの場所の素晴らしさは私の頭の中に思い浮かびます。

今まで、一人で外国でお正月を過ごすのは初めてでした。ちょっと寂しかったですが日本人の友達と一緒に鍋パーティーをして楽しかったです。お鍋を食べてから年越しそばも食べました。元日友達が御節料理を作ってくれて、二人一緒に食べました。そして、ホストファミリーの家にも行きました。ホストファミリーと一緒に初詣をしにお寺に行くと、お寺には大勢の人がいました。こういう思い出は私にとって一生の宝です。



初めて日本でお正月を過ごしました

この一年間いろいろな人、人材育成団の方々、県費留学生の担当者照屋さん、大変お世話になりました。本当に有難いと思います。  
皆さんお元気で、またいつか会える日まで・・・



沖縄の留学生パーティー

AULIA ADRIANI  
:( INDONESIA ):  
県費 2003 \*

## 沖縄は最高!

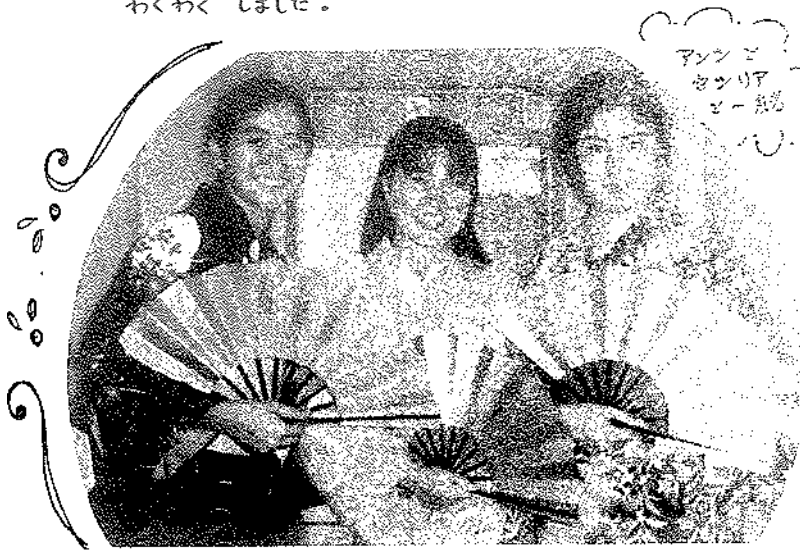
一年って早いな～…

沖縄に来たから、はじめてこういうふうに感じます。

一年間に、いろいろなことがあり、たくさん思い出ができて、時間がいつの間にか過ぎました。本当に沖縄に留学できてよかった…

私はイト'ネツアでも日本語を勉強しています。三年間勉強していて、日本語の言葉や文法をた'いたい分かりますけど、教室の以外に日本語を使うチャンスがあまりありません。ですから私は、できれば日本に留学に行きたいな～と思うのです。

夢が叶うような感じで、沖縄に留学できるということに決定されました。県費留学生として来る私は、その時沖縄はどんな所かなと考えて、心がワクワクしました。



アソビ  
カンパ  
ニー

2003年4月5日に、イト'ネツアから沖縄に行く日でした。飛行機は夜11時の便です。

空港までつれてくれた家族や友達と別れた後は、一人で飛行機を乗って私はどきどきしました。「はじめて外国に一人で行く、お2で誰でもしりあいのないし、どうなるのかな…」と考えました。

4月9日に沖縄に着きました。関西空港で会ったコちゃん(マレーシア)と那覇空港で会ったビキちゃん(タイ)と一緒に空港から出ました。

その時、財団の方々が私達をむかえに来ていたお2、寮までつれて行きました。空港から寮に向かって行く旅に、私は沖縄の青空を見た瞬間、はじめてから沖縄に好きになりました。

寮に着いたら、私は部屋の様子を見ながら、ちょっとほっとしました。  
「本当にもうここに着いたな... 今から留学生活がはじまるぞ...  
頑張ろう...」と考えて、自分の勇気を出させられました。

次の日に、はじめて琉球大学に来ました。広くてきれいな大学です。  
「今からここは私の大学ですね... のいな」と思って、うれしかったです。  
しかし、20日も、クラスレベルを決める試験もありました。はじめての試験  
でした... (!!)

その後、本当にのびのびとした楽しい時間を過ごしました。大学の生活や  
寮の生活や遊びの時間など、全部は私にとって忘れられない思い出に  
なりました。

大学で私は本当にいい先生方に教えていただきました。みんなの先生はやさしくて、  
分かりやすく説明するから、習うのも楽しくなります。勉強も楽しくなります...  
尚美先生はおどおどして、しっかりしている人です。克哉先生は面白いし、  
いつもたくさん宿題をあげるけど、教え方は詳しいです。平林先生は  
とてもいい人ですね... いつも学生に対して精神的に心を強くあげて、  
思いやりのある先生です。スタイルもとてもいいです♡...  
カリ先生は辛抱強く、いつも落ち着いています。栗田先生はやさしくて、  
いつもニコニコしています。  
私はみんなの先生方に大好きです...

流大で日本語の勉強だけでなく、他の勉強もやります。

いろいろなサークルがあるので、私は一つのサークルに入りたいと考えました。  
どんなサークルがいいかなと思って、質問しました。はじめは茶道部を見て、  
その後琉球舞踊のサークルに見学しました。

両方は面白いかなと思いますけど、せっかく沖縄に来てから、沖縄の  
伝統的な文化を勉強しようと思って、琉球芸能研究クラブ  
(流芸)というサークルに入りました。2つのサークルに沖縄の伝統的な  
踊りや沖縄の伝統的な楽器のやりかたを二つのサークルに  
分けて、一つの好きな中心を選びます。私は踊りが好きだから  
それを選びました。



沖縄の踊りは自分の国とちがって、なんとかがつ2なのです。  
インドネシアの踊りは、女の踊りたつたろ、たつたの月を動かして、踊ります。  
だからインドネシアの踊りは、もっと「feminine」たつと思ひます。  
沖縄の女の踊りはゆっくりして、しつかりの動きをします。これは  
カッコイイと思ひます。

私も、流芸に入って、踊りを習ひました。それで、流芸は12月に  
発表会があるので、その時舞台に踊り機会がありました。  
どきどきしたけど、2の機会は二度もなにかもかもしれません、やってみよう  
と思ひます。

大学でいろいろ勉強に役に立ったことがいっぱいあります。  
クラスの友達の前で発表することはもちろん、ある機会には私達はグループ  
に分けて、プロジェクトワークをしました。

プロジェクトワークというのは、あることについてアンケートをつくらせて、どんな結果が  
出るのか予想して、そして、アンケートが答えてもらった後で、その予想は実際の  
結果と比べて、分析をしました。

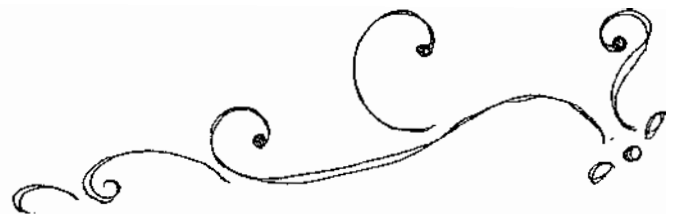
私のグループは漫画についてアンケートを作って、発表しました。このプロジェクト  
ワークをするのは時間がかかるけど、本当に勉強になりました。

なほ、留学生スピーチ大会があります。2月9日 - 2月10日に行つて、2日  
間あります。みんなの県費が参加しますから、どんなスピーチが出るのか  
楽しみです。

私は沖縄にいる間に、大学の近くの寮に住んでいました。流大の  
なほ人どうの女子寮です。

寮に着いたばかりの時、一番びっくりしたことは、シャワー場は寮のビルの中  
ではなく、別のビルにあります。お風呂です。

はじめは「やらしい…」と思つたけれど、たつた人を入れてきて、大丈夫に  
なりました。





その他に、寮にせみせみしていたと思います。日本人の学生と一緒に住んでいるから、毎日日本語をしゃべらなければならぬのです。

私の住んでいる階はCの2階です。みんなはやさしくて、私にいろいろ教えて、本当に助かりました。私の誕生日の時も寮のみなさんがパーティーをやってくれて、とてもうれしかった～



果てしなく友達と一緒に  
あかじまに行った時  
涙しかったです。

沖縄は本当に美所です。はじめ来た時、沖縄の空に愛しました。その後、沖縄の海を見て、もう一度愛を落した。沖縄... すごいな、と思って、感動しました。

青い海と白い砂浜は最高の景色です。こんなふうに海がきれいと思えられないほど沖縄で見えました。

沖縄にいる  
インドネシアの人達





では、もう一度言いますけど... 本当に、本当に沖縄に留学できたのことに  
対して、神様に感謝しています。

みんなの県費達は、それぞれの国から来て、友達になったのは奇跡的な  
ことだと思います。

私達は、もうそろそろ一年間沖縄に生活をくらしたから、そろそろみんなも  
自分の国に戻らなければなりません。しかし私は帰った後も、いつまでも、  
せつない沖縄のこと、みんなの顔を忘れられません。

留学前には私はこんなに留学の生活は楽しいとは思わなかった。みんな  
とわかるのは嬉しいけど、いつか、どこか、みんなとまた会えるのことは  
信じます。

さらに、県費留学のプログラムはとてもいいプログラムだと思います。このプログラ  
ムのおかげで、前は沖縄のことが全然知らない私は知るようになって、  
沖縄に愛になります。歴史的なところの沖縄に対して興味を持って、  
また機会があったらまた沖縄に戻りたいと思います。このプログラムは  
ずっと続けられるよう、祈っています。

最後、この一年間にいろいろお世話になりました。

流大の先生方、いろいろ教えて下さってありがとうございます。先生のおかげで  
楽しく日本語を勉強することができて、心からどうもありがとうございます。

照屋さん、財団の方、いままでも私達面取りを見るのはどうもありがとうございます。  
ます。

県費のみんな、いろいろありがとうね...

アツク、いままでも仲良くなれるのはうれしかったわ... ハルに帰ったら私の  
こと忘れないうでね♡

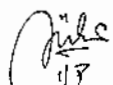
セリーナ、センリアとみんな... いつかみんなにまた会いたいな...

せつ、せつ、機会があったら、また会いましょう。

その時までにはみんなはお元気で、楽しい人生をLZ下さい... ^^

Sampai Jumpa Lagi !



  
KENJI 2003 ★

私と沖縄

ラーワン

タイにいた時、私は「どうしても日本に行きたいなあ、一生一回だけでもいいなあ」とよく考えました。理由はただ日本語を専攻していることが将来就職をする時に役立つだけではなくて私は日本という国が元々から好きなんです。自分もはっきり理由が分かりませんが、しかし具体的なことだ、たらいくつかあります。例えば、日本人は大抵皆が規則を

守ることや年齢や地位の上下関係に気を遣うことや日本人の集団意識のことなどが私にとっては本当にいいことで好きです。ですか分、色々な試験を受けて、日本に来り丸る為でした。結局合格しました。正直に言、て、その時沖縄はどこにあるか全然分が分がなくて、多分日本の四つの島の中にどこかあると思、ただけでした。日本人の友達と話した後、沖縄は日本の四つの島の中になくて台湾と一番近くて電車と地下鉄もなくて雪もないという

ことが分かって、その瞬間少しショックを受  
けましたが、「まあ、大丈夫」だと思いまし  
た。  
四月九日沖繩に到着して忍・照屋さんと一  
緒にタクシードで察まで行きました。察までの  
西側の道は坂道ばかりいっぱいで、私のイメ  
ージと全然違って本当にその時がかりしま  
した。ですから、その最初の日の夜私は泣い  
てしまつた。もう早くここから出たいと考え  
ました。その時本当に沖繩が嫌になりました。

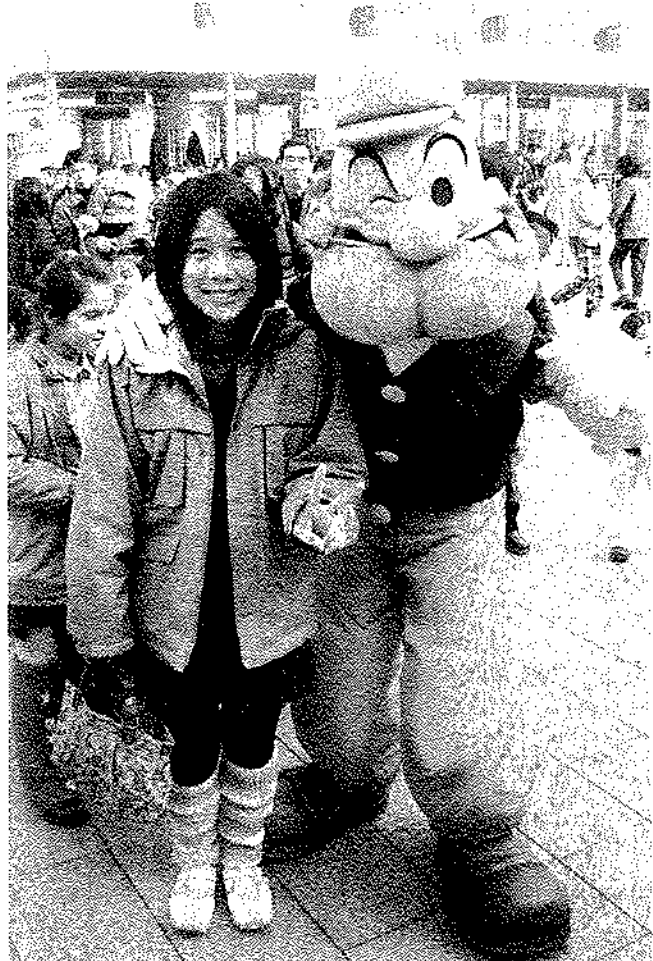
大学が始まってその時毎日台湾と韓国とシ  
ンガポールの友達四人で学校に通つていまし  
た。その時の勉強の感想は本当に怖くて緊張  
して、できるだけ先生の目と合わないようにし  
ました。特に尚美先生の授業が一番怖かつた  
です。いつもテストして先生の質問に答える  
ことなんて、もう本当にストレスになつてよ  
く泣きました。他の授業もクラスで自分の意  
見を話し、例えばケリ先生と石原先生の授業な  
どです。赤嶺先生の授業も本当に漢字を沢山

勉強して試験の時、苦勞しました。  
嫌々な気持ちには毎日続きながら、毎日一生懸命勉強しました。その間チユターができて日本人の友達も何人ができました。ちよと不思議なのですが私のチユターと友達は大体沖繩の人なんです。前タイ人が一番やさしいと思っただけで、今沖繩の人の方が本当にやさしくていい人だと強く感じています。  
私のチユターと友達は私の日本語が前より上手になったと誉めてくれました。ちよと先

生方々のおかげだと思っっています。尚美先生はいつもニユースを聞かせてテストもさせられたり今日日本語のニユースを聞いたら80%分かるようになり、ケリ先生と石原先生のおかげで今ちよんと日本語で自分の意見とが言いたいことを答にうまく伝えられるようになり、赤嶺先生のおかげで漢字を前より沢小覚えられるようになったり色々な日本らしいことを勉強しました。印鑑を作ったことや書道のことは一生涯忘れません。

今沖縄に居る時間は少ししか残っていません。  
今沖縄に対する私の気持は全然前と違います。  
嫌な気持ちもう消えてしまいました。帰国  
する為に少し準備を始めました。何か準備し  
ているうちに、色々なことが頭に浮んできて、  
ここの人々のことも思い出して、急に涙が出  
てしまいました。私は沖縄に来ることができ  
て、皆に会うことができて、本当に「運命」  
だと思っています。沖縄を出て、いつまた来  
られるかも分からなくて何か淋しく感じます。

多分帰っても私の「たましい」はまだここに  
残っているから、いつかまた沖縄に来ると自  
分が考えています。よが「たぬあ」と思っている  
ことは私に残っている沖縄の印象は全てい  
いことで最初とま「たく違」っています。



# 修了報告書

中華民國・台灣  
謝 福台



## Part I ・ 2003-1

2003年8月上旬まで、学校がありましたので、毎日宿題やレポートに励んで充実した日々を送りました。

夏休みの間に一つ以上の論文を完成しようと思い、夏休みに入ってから、参考文献を読んだり、資料を集めたり、データの分析をしたりしてきました。

この間に剣道の先生に誘われて、8月の17日に中頭郡の剣道試合に出ることになりました。チームが三位を取って、新聞にもその記事がのっていたようですが、自分は勝ち越すことができず、皆の足をひっぱってしまって申し訳ないと思いました。やっぱり練習しないと試合に勝つことができないと痛感しました。

おととい、9月4日、今年初めて海に行ってきました。剣道部の部員が伊計島に連れて行ってくれました。沖縄の海は今回が三回目で、伊計島は、その中でも、一番綺麗な海だと思います。魚も多かったですし、砂も綺麗でした。もし海に行くなら、伊計島をお勧めします。

沖縄は夏が大変暑くて、おかげで、頭の回転が止まってしまったという感じでした。しかたなく、涼しいところを探しまわって、図書館に行きましたが、図書館も節約のためにクーラーをあまり涼しくしなかったのが、本当に困りました。皆さん、暑さを解消するのにいい方法があったら教えてください。

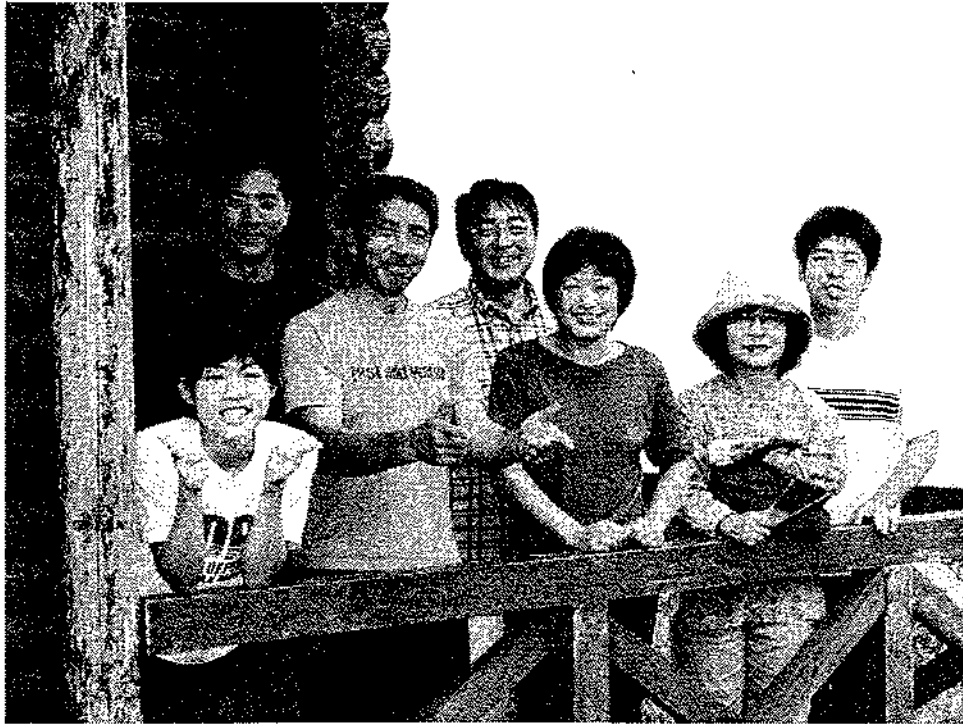


## Part II ・ 2003-2

9月はまだ夏休み中なので、読みたい本を読んだり、論文を書いたりして過ごしました。

夏休みの間、西原町剣道クラブの万里崎英広先生にお招きいただき、先生の家族と一緒に名護の近辺へ旅行に行きました。初めて沖縄の北部に行ったので、何もかも新鮮に感じました。沖縄美ら海水族館もこの時、初めて見学して、世界最大級を誇る「黒潮の海」大水槽に飼育展示されているジンベエザメやマンタを見て驚くばかりでした。そのほか、沖縄の水域の熱帯魚、サンゴ、鮫を観察したり、イルカのダイナミックなジャンプやユーモラスなダンスを觀賞したりすることもできました。

そして、沖縄地元のビールメーカーのオリオンビールの名護工場も見学しました。普段どこでも売られているビールが目の前で造られるのを見るのも初体験でした。



私と万里崎先生と先生の家族。名護にて。

そのほか、9月に剣道部の友人が三回ぐらい嘉数剣友会に連れていってくれました。そこは琉球大学の剣道部と違って、会員たちは社会人で、人数も多いし、剣道も強くて大変気持ちよく稽古ができました。残念なことに10月になると学校が始まって友達の都合と自分の都合があわずに行けなくなりました。車で15分ぐらいの近さなのに、足がないため、自分では行けません。残念ですが仕方がありません。

10月のはじめごろ、台湾・沖縄フォーラムに参加して、沖縄の長寿危機や産業の構造を知るチャンスができました。沖縄に来てから、一番有意義な会合に参加できました。

10月10日は中華民国の建国記念日で、その日の夜、琉球華僑総会に出席しました。そこで台湾の有名な歌手の歌をライブで聴けて楽しかったです。

### Part III・2003-3

11月8日、9日は琉球大学の年に一回のイベント——琉大祭が開催されました。琉大祭はいわゆる学園祭です。この祭りのために大学側はなんと■日前から授業を休ませて学生たちに準備の時間をくれました。台湾の大学では考えられない一大行事となっています。準備の期間にはキャンパス内にワゴン車やトラックなどが走り回って、学生たちがテントを設置したり、荷物を運んだりしている光景が見られました。

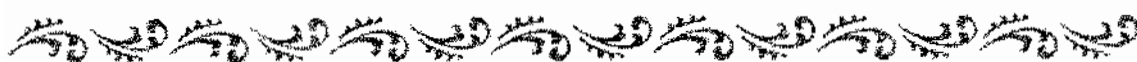
琉大祭当日、琉球大学は訪れる人がいっぱい、普段の雰囲気と違う熱気が溢れていました。ひとつ気になったのは、多くの男子学生が女装していたことでした。テレビでもこういう姿がよく見られるし、高校生以下のことは知らないですが、案外、日本の成人の男性は女装するのが好きなのかと感じたようです。

台湾にいた頃から、テレビで日本の番組や台湾が制作した日本を紹介する番組をよく見て、クリスマスは日本でも祝われるようになっていたことを知っていました。しかし、沖縄ではそんな感じがあまりしませんでした。ほとんど教会関係者がクリスマスに備えてなにかをやるだけぐらいでした。自分の見えない場所で祝っているかもしれませんが。とにかく、琉球大学周辺はクリスマス

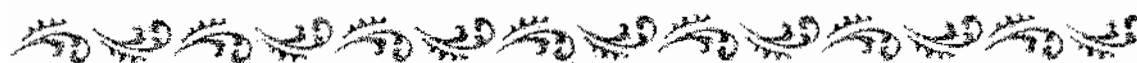
の雰囲気がありませんでした。たぶんすでに冬休みに入ったせいではないでしょうか。

12月は、なんといっても、忘年会のシーズンのようです。忘年会の会場となるレストランや居酒屋のCMがどんどん流れていました。琉球大学剣道部が早くも12月6日にOB会との忘年会を開催しましたが、OBはあまり出席しませんでした。年に一回の会合は残念な気持ちで終わりました。ほかのところはこんなことはないでしょう。

日本に来る前、「年越し稽古」の話聞いて大変興味深くなって、一度参加してみたいと思っています。今年は、足がないため、時間があるものの、行けませんでした。来年こそ、ぜひ参加したいと思います。



琉球大学台湾同窓会（全員^^;）



## Part IV・2004

1月22日に長田小学校に行って、四年生のクラスで、お母さんたちが子供たちに読み聞かせをするのを見学してきました。ちょうど旧正月だったので、子供たちに話しかける時、最初に「明けましておめでとうございます」と言ったら、異様な目線を浴びせられました。その反応は私の予想通りでしたから、子供がおかしいと思った瞬間は話題を導入するタイミングだと考えていたのです。

それで、旧正月は世界中の中国系や韓国人などが、過ごすお正月だと教えてあげました。世界中に百九十以上の国々があり、すべての国の習慣や風俗は自分の国と必ずしもおなじものではありません。この機会を生かして、子供たちに知ってもらいたかったのです。それから、簡単な自己紹介をしました。偶然にも、教室の壁に世界地図が貼ってありました。それに、異なる言語を使うそれぞれの国のところに、その言語で「ありがとう」という意味の文字が、書かれていました。中国語の「ありがとう」は「謝謝」と書かれていました。ちょうど自分の名字と同じだったので、自己紹介する時に、それを取り上げて用いました。

その後、お母さんたちが手作りで作った大きな絵本も見せてくれました。一冊はとても綺麗で、十人ぐらいのお母さんたちが、半年もかけてしあげたそうです。その絵本も新聞の記事に載せたことがあるということです。もう一冊はあるお母さんが一人で切り紙の形で作ったものです。それもまた素晴らしかったです。お母さんたちが子供に一冊でも多くの本を読んでもらいたいという気持ちに感動しました。お母さんたちの努力のお陰で、本を借りて読む子供が増えてきたそうで、この読み聞かせは本当に大変いいことだと思います。

自分の記憶の中で、子供の頃、台湾はまだ戒嚴の体制だし、出版業もまだ今のように発達していなかったし、本屋も少なかったし、地方の図書館もなかったし、本を読みたくても、なかなか手に入れられない状況でした。現在は、昔と比べると、まさに天と地の違いです。毎年、本は、数え切れないほどの量で出版されていて、読む本がなかった時代から、本を読む時間がない時代になりました。本屋に行ったら、目をまよわせるくらいたくさん本が並んであって、どれを選んだらいいかと、困ったことが何回もあります。図書館や閲覧室など

の施設も十分に整備されて、専門書を除いて、本を読む気さえあれば、読みたい本が見当たらないことはないではありませんか。

それに、インターネットの普及と流通業の発達に恵まれ、必要な本は近所の本屋になくても、オンライン本屋を利用して、世界中の本を取りよせることもできるようになりました。わずか十数年の間で、世の中がこんなに変わるものだと思いませんでした。今の時代を生きている私たちは本当に幸せだと思います。



首里城

## Part V ・ 2003～2004

2003年4月から琉球大学の学生寮のユニット長を務めることになりました。ユニット長という職務は2003年四月から設けられたそうです。寮にはもちろんきまりがあります。しかし、それまで、あまり学生に守られていなかったようです。寮の規則を学生に守ってもらうために、各ユニットで一名の代表を選び出して、ユニットのリーダーとして、ほかの学生たちに寮のきまりをきちんと守るよう伝える役目を担っています。



国慶日晩会にて M s. OKINAWA と

自分がこの職務を始めてから、早速、手をつけたのは、寮の生活公約から、普段の生活に密接に関わるきまりを取り出し、それをもとに、ユニットの規則（夜中は静かに；掃除当番の心得など）を作ることでした。ようやく出来上がって、学生の中で一番年上の方に見てもらってから、ユニットのメンバーに配りました。特に新しく入ってきたメンバーには手渡して、なにか問題があるか

を確認しました。そして、いよいよユニットの規則での生活が始まりましたが、早くも二人目掃除当番(新しく入ってきた四年生)が意見を言い出しました。「なんで掃除しなければいけないか、いままで(寮のほかのユニットで一年から、三年まで)全然やっとなんかがないけど」というのです。それを聞いて本当に驚きました。日本の学生は寮に住んでも掃除はしないのかと、溜息をつくしかありませんでした。もっと面白いのは、そう言った学生が規則に書いてあることをやらなかったことを私が指摘したら、なんと「そんなことは知らない」と答えてきました。前に渡した規則にちゃんと書いてあると言ったら、今度は「見てない」と答えました。その時、頭の中でなにか化学作用でも起こったようで真っ白になりました。これは、半年間のユニット長としての生活の序曲でした。

ユニット長を務める半年間は短いような長かったような気がしました。この前、ある日本人の友人との会話で、「留学生達は皆しっかりしてますね。しっかりしていなければ留学したくないのではありませんか。なぜなら国から離れての一人暮らしですから。」という話が友人の口から出ました。確かに、自分の見た限り、たいがい留学生の方が日本人の学生より、規則を守っています。そして、脳裏に、「一人一人の留学生はそれぞれ国を代表するような存在で、そういう意識が留学生をより責任感が強い人間を形成させたのではないか」という考えも脳裏に浮かびました。

日本には「可愛い子には旅をさせよ」という諺があります。この諺の意味は、子供の将来のため、できるだけ家から離れる機会を作り、世の中のことを経験させ、視野を広げさせ、独立心を養わせ、そして子供が一人前になるようにするということです。まさに現代の留学生そのものを表しているでしょう。



END



## 修了報告書

日本語を習い始めてから日本への留学は私の大きな夢だった。この夢は去年の四月に沖縄県費奨学生に応募に合格したことでやっと実現できるようになった。この一年近くの留学生生活を振り返えてみると”光陰矢のごとし”という言葉がつくづくと感じさせられた。

沖縄に来る前に確かに不安な気持ちばかりだった。一年中ずっと帰国できないので、もし、ホームシックにかかったらどうしたらいいか。また、いきなり23年も生活していた台湾や家族の下を離れて行って一人でちゃんと生活できるのだろうかといろいろ不安した。

そして、沖縄に来て新しい生活が始まって、新しい友達ができても、なかなか鬱陶しい日々だった。それは私が都会生活に慣れていて、不便な沖縄に慣れていないからである。沖縄にいて交通手段がないのでどこかへ行きたかったら、歩くしかない。それに、外食が高いため毎食自炊しなければならない。また、学寮のユニットにはバスが付いていないし、トイレや台所が共同で使われている。このような生活は台湾での生活とはまったく違うので常に文句があったわけである。

しかし、このような気持ちは沖縄の文化に触れてからだんだん消えてしまった。そのきっかけは学校のサークル・琉球芸能研究クラブに入って三線を稽古し始めたのである。三線との出会いでだんだん沖縄が気に入るようになってきた。サークルの友達と一緒に発表会に出て、いい思い出を作ったのである。私の初舞台なので少し緊張したが最後の曲「十九の春」を歌っていた時に自分も涙が出るほど感動した。厳しい練習した甲斐があったのではないかと思っていた。台湾に帰っても三線を必ず弾き続けたいと決心した。台湾の人々に沖縄の独自の文化を知ってほしいのである。

三線だけではなく、沖縄の独特な歴史にも引かれたので、後期に研究生に変更して沖縄の皇民化教育について学び始めた。帰国後に修士論文のテーマにしてこの勉強をし続けたいと思う。今までずっと悩んでいた修論はやっと決定するようになった。これも沖縄に来た一大収穫だと言えるのではないか。

もちろん、サークルや勉強だけではなく、「よく学べ、よく遊べ」を座右の銘として、夏研修、寮の各種パーティー、忘年会、お正月体験、研究室の飲み会など心行くまで遊んだり楽しんだりしていた。勉強と遊びの中でどちらかに偏らなくて、よいバランスを取って過していた。

やっと沖縄に慣れてきたし沖縄が好きなようになったのに、そろそろ帰国するなんて、本当に名残惜しいのである。しかし、留学生活の喜怒哀楽をたっぷり味わっていて一生忘れられない思い出になると信じている。しかも、いろいろ



ろな体験があったからこそ、自分の日本語能力はまだ不十分だと常に実感させられて、これからは自分自身の能力を向上させるためにもっと磨いていきたいと思う。

台湾の大学は 2 月中旬に始まるので私は皆より早く帰らなければならない。そして、大学院に戻って単位を終わらせてから高校で日本語を教えることになっている。この一年に見たこと、感じたこと、体験したことを全て教学現場に生かしたい。単に文法を教えるだけではなく、自分が身を持って体験したことをも教えたい。これを一年支えてくださった沖縄の方々への恩返しとして頑張っていきたいと思う。

最後になりますが、この場を借りてこの一年、お世話になっていただいた先生方や県庁の皆様へ感謝の意を申し上げるためにこの報告書を捧げさせていただきたいと思う。また、同じ県費留学生として沖縄に留学してきた留学生達に「皆と出会って本当によかった」と伝えたい。きっといつか、どこかでまた会えると、強く信じている。

2003.02.07



11月13日 紫のパーティー  
紫陽花棟B5

本当にB5に来てよかったですね。  
綺麗だし、皆もやさしい。  
とても親切してくれた。  
ありがとう!!



12月6日 琉芸発表会  
沖縄市民会館にて  
一生忘れがたい思い出  
台湾に帰っても  
三線を弾き続けたい....



12月30日 餅搥体験  
大阪の友人の家に泊らせて  
もらった。寒かったけど、  
餅搥は楽しかったよ。  
本当にいい体験だった。

2004.07  
台湾 楊雅男

# 私とホームビジットの家庭

中国 ・ 顧 国欣

留学前、琉球王国について多少聴いたことがありましたから、沖縄にずっと関心を持っていました。沖縄へ留学に来るのが楽しみでした。

私はほかの県費留学生より二ヵ月半ぐらい沖縄に遅れていました。

来たばかりの頃は慣れなくて、日本語がやっと聞き取れても話す自信がなく、挨拶さえ怖くて、いつも何も言わずに黙っていました。そして、大学の授業は一時間出ただけで、次は終了テストでした。私には前学期が終わった実感はぜんぜんありませんでした。夏休みの二ヶ月間は毎日図書館に通うしかありません。そんな時、国際交流課を通して、ホームビジットの家庭と出会いました。その日から、ある暖かい喜びがずっと続いています。

初めて出会った日、私はいつものようにほとんど喋りませんでした。何かを聞かれても、簡単に言葉で短く答えるだけでした。

でも、「コクシンのふるさと、どう？」

「古里は中国の北の方にあります。あんまりにぎやかじゃない町ですけど、■季がはっきり分かれていて、高い山も大きな川も広い海もあります、、、、」。知らず知らずのうちに私はたくさん話しました。

「コクシン、海好き？」

「うーん、大好き！」

「じゃ、今から、海に行こう！」

「えっ？」

「今日、海洋博祭りだから、、、、」

この日、私は初めて沖縄の海に触れて、美ら海に感動させられました。この日、私は初めて海の上で咲いている花火を眺めて、そういう瞬間の美しさがずっと心に残っています。この日、水族館で初めて見たマンタのお腹は笑顔のようでした。だから、この日から、私たちはマンタを「笑顔」と言い始めました。この日は日本に来て以来、私の笑いが最も多い一日でした。この日のことは忘れられない美しい思い出です。

ホストファミリーのお父さんは何にでも関心を持っている人で、政治・経済・文化・芸術・体育、、、、何でも相談できます。ほとんど喋らなかつた私がだんだん多弁になります。ホストファミリーのお母さんはボランティア活動をやっている30年にもなります。私も一緒に活動に参加し、友達もたくさんできました。嬉しいわ。

そして、ホームビジットの家族は元琉球王国の王族で、沖縄の歴史や風土や

自然などに詳しいです。そのおかげで、いろんな名所に連れて行ってくれたり、体験させてくれて、いろんな知識を教えてくれたり、いろんな文化と交流をさせてもらっています。

あっという間に時間が流れていきます。お正月を迎え、初詣でお寺の仏様に「美しい思い出を与えてくれた人々が幸せになりますように」と、お祈りしました。



沖縄文化環境の国際交流課や沖縄県国際交流・人材育成財団の皆様、琉球大学の先生方、ホームビジットの家庭、日本人の友達、留学生の友達そして県費留学生の担当の照屋さん、いろいろお世話になりました。誠にありがとうございました。沖縄での思い出はいつまでも忘れられません。

# 沖 縄 留 学 二、三 事

中国 張麗峰

## 来 沖 初 日

昨年四月十七日、私は 留学するために沖縄へ来ました。その時、私は日本語で話ことが、まだあまりできなくて、日本についてもあまり理解していませんでした。だから 飛行機の中で ずっとドキドキしていました。どのようにすれば日本での生活になれるかどうか？ どうやって 他の人と交流すればいいのか？ 様々な不安を持って 那覇空港に降りて、私を迎えた新屋さんと会いました。新屋さんの親切な話で、わたしの緊張した気持ちをリラックスさせました。その後 新屋さんと 琉球大学へ来ました。初めて琉球大学にはいったので、いろいろな手続きをやらなければな

らなかったのですが、琉球大学についた時、もう三時を過ぎていて、時間がない上、どうすればいいかわかりませんでした。急いでいた時 財団の照屋さんや 台湾の県費留学生の謝さんなどと会いました。その後 謝さんは ずっと 私と一緒に いろいろな手続きやってくれました。全部のことが終わった時、もうすでに七時をまわっていましたが、全部手続きが終わってちょっと安心しました。はじめて日本に来た時、 いろいろな手伝いを受けましたのは、本当に幸せだと思いました 皆さん ありがとうございます。

## ホーム ビジット

十二月、私のホームビジットの外間さんの誘いに応じて、土曜日の午後、名護にいきました。外間さんは orion ビール会社で仕事をしています。その日は ちょうど orion ビール一日大学が 開催されていきました。だから 外間さんは私をつれて、orion ビール一日大学に参加しにいきました。

orion ビール会社で orion ビールを飲んだり はなしたりして 友達もつくり皆で 一緒に 楽しみました。本当に嬉しかったです。 次の■の朝、先の予定によって 沖縄国際ロード自転車試合見に行きましてから、 沖縄水族館にいきましたが、途中で 車酔いでしたので、水族館へ遊びにいけなくなりました。残念でした。しかし 親切な奥さんは 私のためにおいしいお粥を作ってくれました。幸せだと思いました。楽しいホームビジットでした。

去年 自分の努力と皆さんの手伝いによって、私は 琉球大学医学部の大学院の博士入学試験を合格しました。そして 照屋さんのおかげで、留学の手続きも大丈夫になりました。本当に嬉しかったです。

留学の一年間で 照屋さんをはじめに 財団の皆さんには いろいろお世話になりました。ありがとうございました。

背景は あかじまの海と空です

# 修了報告書

韓国 金 スーヒ

沖縄に来て変わったこと

まず20代から30代になったことですね！

何日前、30歳の誕生日を迎えました。沖縄で迎える今年の誕生日は特別というか、いつもとは違う、ちょっと変な感じがしました。沖縄で与えられた一年という時間は、いままでの長い旅程を振りかえて見て、一段落区切りをつけ、またこれからひろげられる新しい30代をどう迎えるか計画を立てる、エネルギーの充電！人生のリフレッシュ！の時間になりました。私の人生の最高のプレゼントではないかと思います。

そして何よりも沖縄に来て一番変わったところは性格ではないかと思います。韓国にいたときは、何かに追われているようにアクセク前だけ見て走って来たような気がするが大自然に恵まれている沖縄に来てからはその自然の一部になって、ノホホンノホホンと心の余裕を持って暮らせるようになりました。手につかめるよう近い青空と、すぐでも落ちそうな夜空の星たちとも友達になりました。空ってこんなにきれいだったかしら！あらためて感動しました。気が短くて、いつもいらいらしていた私が、沖縄ではストレスをあまり感じた覚えがありません。いまは逆に韓国に帰って生活に適應できるかな、ちょっと不安です。

悲しいことに5kg以上の贅肉を持って帰るようになりました。来る前は必ずダイエットに成功してビキニを着て沖縄のエメラルド海で見せびらかすぞ！という覚悟だったのですが、最初持って来た服さえ小さくなって押入れのなかに入れっぱなしでした。沖縄のおいしい空気と食べ物のおかげで年々無休食欲旺盛！5kgだなんて！ありえないんですね！豆腐チャンプルと野菜味噌ラーメンが大好きになってたまられなかったです。

次は病気になったことです。沖縄に来て一年ずっと病院通いでした。生まれてあまり病院ということをしらなかった私でしたが、学期初めに受けた健康診断の時、甲状腺の異常と言われました。何をやってもすぐ疲れてしまい、急に親知らずまで出てしまい、本当につらい思いをしました。結局抜歯しました。あまりにも気を緩みすぎだったかしら！！



歩くのが好きになりました。最初は車がないからだったと思いますが、どんどん沖縄のおいしい空気とすずしい風、鳥の鳴き声を楽しめるようになったからです。韓国では車ばかりのアスファルト道で散歩は考えることさえできなかったが、自分の足で土を踏む気持ちよさにはまりました。

表玄関から見た「沖縄らしさ」だけではなく、やっと裏口からの沖縄の闇まで見えるようになりましたのに別れるのは本当に名残惜しいです。

私の人生にとって掛替えのない、こんなすばらしいプレゼントをくださった沖縄県民をはじめ、財団の方々、琉球大学の先生方、留学生皆さん、そしてホストファミリーに心から感謝の気持ちを伝えたいと思います。



くたか島で(エメラルドの海  
ほんとうに きれい!) 色



那覇祭り  
綱引き  
もちろん勝ち!  
糸ももろって来よう!



OTVで  
がっこういい  
アナウンサーさんと  
いっしょに!

平成15年度 沖縄県海外留学生修了報告書  
発行 財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団  
〒900-0034  
沖縄県那覇市東町1-1 那覇東町会館7階  
TEL：098-941-6755  
FAX：098-941-6812